

平成15年度 和歌山県名匠

【漆器沈金師】 久世清吾

【現住所】海南市

【生年】昭和12年

業績及び経歴

昭和12年海南市で生まれる。祖父の代から漆器沈金師であった家系に生まれ、16歳の時、父の久世一雄氏の厳しい指導で、漆器沈金の道に入る。

沈金とは無地の漆器の表面にノミで模様を彫り、金箔を埋め込む伝統的技法であるが、氏は50年余り沈金に取り組み、県内では数少ない漆器沈金師として技術の研鑽に励むとともに、後進の指導育成等紀州漆器の普及・発展に努めてきた。

昭和52年頃から東京や大阪などのデパートで実演を行い、各地で沈金ファンを増やしてきた。また地元では、紀州漆器伝統産業会館の漆器蒔絵体験ハウスの講師や伝統工芸品教育事業の講師等を率先して担うなど小・中・高校生をはじめ幅広い層に、紀州漆器を広めていこうと日々努力を惜しまず尽力し、その功績は多大である。

また平成14年にJR海南駅にある海南市の物産観光センターで沈金実演・作品展を行った際、生徒達と共に書道と沈金を組み合わせさせた作品を完成させ、伝統技術をいかした斬新的な作品を披露し、話題を呼んだ。

平成11年に伝統工芸士に認定され、平成15年には近畿経済産業局長表彰を受賞している。